

審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次）保健医療学研究科 理学療法学専攻（D）

1. 養成する人材像及び3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーをいう。以下同じ。）について、以下の点が明確になるよう具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（是正事項）…………… 4

（1）本学が掲げるディプロマ・ポリシーについて、主に「研究者」として必要な資質・能力を設定しているように見受けられるが、本学においては「指導的高度医療専門職者」や「教育者」といった「研究者」とは異なる資質・能力が必要になると考えられる養成する人材像を掲げていることを踏まえると、適切なディプロマ・ポリシーが設定されているのか疑義がある。このため、本学の養成する人材像に掲げる「指導的高度医療専門職者」や「教育者」にとって必要と考えられる資質・能力を具体的に明らかにしつつ、当該資質・能力がディプロマ・ポリシーに適切に設定されていることについて明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

（2）本学の掲げるカリキュラム・ポリシーについて、ディプロマ・ポリシーと同様、主に「研究者」としての資質・能力を修得するために設定されているように見受けられることから、養成する人材像を踏まえて適切に設定されているのか疑義がある。加えて、DP2に掲げる「高い倫理観」に対応するカリキュラム・ポリシーが判然とせず、ディプロマ・ポリシーに整合した適切なカリキュラム・ポリシーが設定されているのか判断することができない。このため、関連する審査意見への対応を踏まえつつ、本学のカリキュラム・ポリシーがディプロマ・ポリシーに整合して適切に設定されていることについて、図や表を用いつつ明確かつ具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

（3）アドミッション・ポリシーについて、関連する審査意見への対応を踏まえ、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシー、教育課程等との整合性を担保した上で、妥当なものであることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

2. 審査意見1のとおり、カリキュラム・ポリシーの妥当性について疑義があることから、教育課程全体が妥当であるとの判断をすることができない。このため、審査意見1への対応や以下に例示する点を踏まえて、本学科の教育課程が適切なディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、修得すべき知識や能力等に係る教育が網羅され、体系性が担保された上で、適切に編成されていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（是正事項）…………… 13

(1) 例えば、「運動器・スポーツ理学療法学特講演習Ⅰ」のシラバスについて、複数回担当する教員の授業内容が同じ内容であり、かつ本授業で取扱う具体的な疾患が判然としないなど、「設置の趣旨等を記載した書類（本文）」の「1. 3）(2) 運動器・スポーツ理学療法学領域」で説明している課題等に対応可能な内容となっているのか疑義がある。このため、シラバスの授業計画を適切に改めるとともに、本専攻に設ける3つの研究領域（神経・運動機能制御理学療法学領域、運動器・スポーツ理学療法学領域、内部機能障害理学療法学領域）における課題等に対応可能な授業内容になっていることについて明確かつ具体的に説明すること。

3. 審査意見1のとおり、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに疑義があるため、アドミッション・ポリシーの妥当性を判断することができないことから、アドミッション・ポリシーに整合した適切な入学者選抜になっているかどうかについても判断することはできないが、例えば、試験科目として語学試験（英語）を課しているが、本試験ではアドミッション・ポリシーに掲げる項目の何を評価・判定しているのか不明確であるなど、アドミッション・ポリシーに基づいた適切な入学者選抜となっているのか判然としない。このため、関連する審査意見への対応を踏まえつつ、本学の入学者選抜がアドミッション・ポリシーと整合した適切な選抜方法になっていることについて、明確かつ具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

（是正事項）…………… 16

4. 本専攻においては、社会人が在職したまま修学できるよう、大学院設置基準第14条を適用し、社会人に配慮した教育方法を実施するとしているが、入学者選抜においては、社会人選抜を設けることなく、「社会人も一般選抜に含め、同一の基準で選考する」としている。しかしながら、例えば、面接試験の評価基準などについて具体的な説明がないことから、社会人も一般選抜に含めて選考した時に、社会人が入学可能な入学者選抜になっているのか疑義がある。このため、選抜基準を明確に説明することにより、社会人も一般選抜に含め、同一の基準で選考することの妥当性について具体的に説明すること。（是正事項）…………… 18

5. 「設置の趣旨等を記載した書類（本文）」の「10. (1) 校舎等施設の整備計画」において、「御茶の水センタービル及び診療放射線学科実習棟には、講義室、演習室、実習室、実習用機器・備品が整備されており、本研究科においても各施設を保健医療学部と共用する。」と説明しているが、具体的にどの講義及び演習において、どのような設備、機器及び備品が必要となり、それらがどこに備え付けられているか等についての詳細な説明がないことから、示された整備計画が妥当であるとは判断できない。このため、本専攻の設備、機器及び備品が教育内容に即して十分であることについて、明確かつ具体的に説明することにより、本専攻の教育研究に支障がないことについて明らかにすること。

（是正事項）…………… 20

- ①設置の趣旨等を記載した書類は当該申請に係る専攻のみを記載すること。
- ②1年次の研究指導スケジュールについて、本専攻修士課程（博士前期課程）を経ていない入学者へのサポートについて具体的に説明すること。
- ③学生確保の見通し等を記載した書類で選定した競合校の妥当性についてより具体的に説明すること。
- ④人材需要に関するアンケートの調査対象が医療機関に留まっている。医療機関以外における人材需要について説明すること。
- ⑤「神経・運動制御理学療法学」の誤記を正すこと。

(是正事項) 保健医療学研究科 理学療法学専攻 (D)

1. 養成する人材像及び3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーをいう。以下同じ。）について、以下の点が明確になるよう具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(1) 本学が掲げるディプロマ・ポリシーについて、主に「研究者」として必要な資質・能力を設定しているように見受けられるが、本学においては「指導的高度医療専門職者」や「教育者」といった「研究者」とは異なる資質・能力が必要になると考えられる養成する人材像を掲げていることを踏まえると、適切なディプロマ・ポリシーが設定されているのか疑義がある。このため、本学の養成する人材像に掲げる「指導的高度医療専門職者」や「教育者」にとって必要と考えられる資質・能力を具体的に明らかにしつつ、当該資質・能力がディプロマ・ポリシーに適切に設定されていることについて明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(2) 本学の掲げるカリキュラム・ポリシーについて、ディプロマ・ポリシーと同様、主に「研究者」としての資質・能力を修得するために設定されているように見受けられることから、養成する人材像を踏まえて適切に設定されているのか疑義がある。加えて、DP2に掲げる「高い倫理観」に対応するカリキュラム・ポリシーが判然とせず、ディプロマ・ポリシーに整合した適切なカリキュラム・ポリシーが設定されているのか判断することができない。このため、関連する審査意見への対応を踏まえつつ、本学のカリキュラム・ポリシーがディプロマ・ポリシーに整合して適切に設定されていることについて、図や表を用いつつ明確かつ具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(3) アドミッション・ポリシーについて、関連する審査意見への対応を踏まえ、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシー、教育課程等との整合性を担保した上で、妥当なものであることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

(1) について

「指導的高度医療専門職者」には臨床の疑問を解き明かす課題解決能力・研究力や後進の指導・育成、大学教員などの「教育者」には専門分野における研究遂行能力が求められていることから、審査意見のとおり、主に「研究者」として必要な資質・能力が強調されて見えるような記述になってしまった。本学は、医療機関等で活動する医療職者や大学で教育・研究に携わる教員にとっても、高い専門性に基づいた新たな理論構築や方法論の展開力、自身の研究プロジェクトの遂行力、国内外を問わず研究成果を発信し理学療法学の教育・研究に発展に貢献する能力は、極めて重要な資質であると考え。加えて、「研究者」の文字が独り歩きし、本専攻での学びを希望する、医療機関等で活動する社会人が教

育・研究指導を受ける機会を損失しかねない。そのため、「指導的高度医療専門職者」「教育者」「研究者」のように特定のイメージを植え付ける可能性のある表現を改め、養成する人材像とディプロマ・ポリシーを次のとおり改める。また、関係する部分を修正するとともに文章・表現を整合させる。

養成する人材像

本研究科博士後期課程では、学是である「仁」の心を兼ね備え、国内外を問わず多様な場で社会に還元・貢献できる専門知識と専門技術、及び高度な研究能力を有し、理学療法学の研究を積極的に推進し、質の高い理学療法学の基盤を創造、ならびに後進の指導を行い得る人材の養成を目的とする。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

標準修業年限（3年）以上6年以内在籍し、修了要件となる10単位以上を取得し、次の資質・能力を身に付けるとともに、必要な研究指導を受けた上で博士論文の審査及び試験に合格した者に対し、博士（理学療法学）の学位を授与する。

- DP1. 高い専門性と発展的な理学療法学の知識・技術に基づき、新たな理論構築や方法論を展開できる能力
- DP2. 専門的知識・技術を駆使し、自ら研究プロジェクトを高い倫理観を持って厳格に遂行できる能力
- DP3. 研究成果を国内外に発信し、理学療法学の教育・研究の発展に貢献できる能力

（2）について

審査意見のとおり、「研究者」としての資質・能力に限定されるように見受けられるため、審査意見1.（1）への対応で養成する人材像とディプロマ・ポリシーを修正した。これに伴い、カリキュラム・ポリシーについても表現を改める。また、DP2に掲げる「高い倫理観」については、演習・研究指導の特別研究において、研究課題に関連した専門知識や研究遂行技術を学ぶことによって、身に付けることとしている。これらを踏まえ、カリキュラム・ポリシーを次のとおり修正し、シラバスも修正する。

カリキュラム・ポリシー

- CP1. 新たな理論構築や方法論の展開に資する高度な専門知識を学び、質の高い理学療法学の基盤を創造する能力を高める。
- CP2. 専門領域の学術研究を積極的に分析し、研究課題に関連した専門的知識や研究遂行技術を学ぶことで高い倫理観を身に付け、自立して研究を行うことができる能力を培う。
- CP3. 研究課題に係わる国内外での学会発表や論文公表等により専門分野の学識を深め、国内外の専門家と積極的に交流し、国際的水準での研究推進や教育の発展に努める。

(3) について

審査意見1. (1)・(2)を踏まえ、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーとの整合性を担保するため、アドミッション・ポリシーを次のとおり修正する。

アドミッション・ポリシー

求める学生像

- AP1. 博士前期課程等で修得した専門領域の基盤となる知識・技能、柔軟な思考力と倫理観を兼ね備えている人
- AP2. 豊かな人間性と強い探求心を持ち、理学療法学分野の発展のため、自立して研究に取り組む姿勢がある人
- AP3. 理学療法学分野に高い知的関心を持ち、最先端の研究に目を向け、研究をやり遂げ、研究成果を国内外に発信する英語力のある人
- AP4. 博士後期課程で修得した高度な教育研究能力を活用し、理学療法学の発展に貢献する強い意志のある人

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類、設置の趣旨等を記載した書類 資料、シラバス、学生確保の見通し等を記載した書類

新	旧
<p>設置の趣旨等を記載した書類 (9 ページ)</p> <p>4) 教育研究上の理念及び目的 (1) 教育研究上の目的 本研究科では、学是である「仁」の精神に基づき、国内外を問わず多様な場で社会貢献できる高度な実践能力をもち、理学療法学のあり方を探求することのできる人材の養成を目的とする。 特に本研究科博士後期課程では、<u>専門知識と専門技術、及び高度な研究能力を有し、拡大を続ける理学療法学分野における研究を積極的に推進し、質の高い理学療法学の基盤を創造、ならびに後進の指導を行い得る人材の養成を目的とする。</u></p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類 (9 ページ)</p> <p>4) 教育研究上の理念及び目的 (1) 教育研究上の目的 本研究科では、学是である「仁」の精神に基づき、国内外を問わず多様な場で社会貢献できる高度な実践能力をもち、理学療法学のあり方を探求することのできる人材の養成を目的とする。 特に本研究科博士後期課程では、<u>高度な専門知識を有する指導的<u>高度医療専門職者</u>や、拡大を続ける理学療法学分野における研究を積極的に推進し、質の高い理学療法学の基盤を創造する<u>教育者・研究者</u>の養成を目的とする。</u></p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類 (10 ページ)</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類 (10 ページ)</p>

新	旧
<p>5) 養成する人材像と学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>(1) どのような人材を養成するのか</p> <p>本学は学是「仁」の精神を基に、「不断前進」を教育研究の理念とし、他者を思いやり理解する心・感性を持ち、現状に満足せず、常に高い目標を目指して努力を続ける人材を育成していくことを目指している。</p> <p>本研究科博士後期課程では、学是である「仁」の心を兼ね備え、国内外を問わず多様な場で社会に還元・貢献できる専門知識と専門技術、及び<u>高度な研究能力を有し、理学療法学の研究を積極的に推進し、質の高い理学療法学の基盤を創造、ならびに後進の指導を行い得る人材の養成を目的とする。</u></p> <p>(2) 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>本研究科博士後期課程における学位授与の方針は以下の通りである。</p> <p>【理学療法学専攻博士後期課程】</p> <p>標準修業年限（3年）以上6年以内在籍し、修了要件となる10単位以上を取得し、次の資質・能力を身に付けるとともに、必要な研究指導を受けた上で博士論文の審査及び試験に合格した者に対し、博士（理学療法学）の学位を授与する。</p> <p>DP1. 高い専門性と発展的な理学療法学の知識・技術に基づき、新たな理論構築や方法論を展開できる能力</p> <p>DP2. 専門的知識・技術を駆使し、自ら研究プロジェクトを高い倫理観を持って厳格に遂行できる能力</p>	<p>5) 養成する人材像と学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>(1) どのような人材を養成するのか</p> <p>本学は学是「仁」の精神を基に、「不断前進」を教育研究の理念とし、他者を思いやり理解する心・感性を持ち、現状に満足せず、常に高い目標を目指して努力を続ける人材を育成していくことを目指している。</p> <p>本研究科博士後期課程では、学是である「仁」の心を兼ね備え、国内外を問わず多様な場で社会に還元・貢献できる<u>高度な専門知識と専門技術を有する指導的高度医療専門職者や、理学療法学の研究を積極的に推進し、質の高い理学療法学の基盤を創造の養成を目的とする。</u></p> <p>(2) 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>本研究科博士後期課程における学位授与の方針は以下の通りである。</p> <p>【理学療法学専攻博士後期課程】</p> <p>標準修業年限（3年）以上6年以内在籍し、修了要件となる10単位以上を取得し、次の資質・能力を身に付けるとともに、必要な研究指導を受けた上で博士論文の審査及び試験に合格した者に対し、博士（理学療法学）の学位を授与する。</p> <p>DP1. 高い専門性と発展的な理学療法学の知識・技術に基づき、新たな理論構築や方法論を展開できる能力</p> <p>DP2. 専門的知識・技術を駆使し、自ら研究プロジェクトを高い倫理観を持って厳格に遂行できる能力</p> <p>DP3. 研究成果を国内外に発信し、理学療</p>

新	旧
<p>DP3. 研究成果を国内外に発信し、理学療法学の<u>教育・研究の発展に貢献できる能力</u></p>	<p>法学の研究の発展に貢献できる能力</p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類（12 ページ）</p> <p>3. 教育課程の編成の考え方及び特色 1) 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>本研究科博士後期課程では、基礎とする保健医療学研究科博士前期課程の理学療法学、およびその関連領域における学識をさらに発展させ、高い専門性と発展的な理学療法学の知識・技術に基づき、新たな理論構築や方法論を展開できる能力、専門的知識・技術を駆使し、自ら研究プロジェクトを高い倫理観を持って厳格に遂行できる能力、研究成果を国内外に発信し、理学療法学の研究の発展に貢献できる能力を有することで、<u>理学療法学の研究を積極的に推進し、質の高い理学療法学の基盤を創造、ならびに後進の指導を行い得る人材の育成を目的とする。</u></p> <p>教育目的を達成するためのカリキュラム・ポリシーは次に示すとおりである。</p> <p>【理学療法学専攻博士後期課程】</p> <p>CP1. 新たな理論構築や方法論の展開に資する高度な専門知識を学び、質の高い理学療法学の基盤を創造する能力を高める。</p> <p>CP2. 専門領域の学術研究を積極的に分析し、研究課題に関連した専門的知識や研究遂行技術を学ぶことで、<u>高い倫理観を身に付け、自立して研究を行うことができる能力を</u>培う。</p> <p>CP3. 研究課題に係わる国内外での学会</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類（12 ページ）</p> <p>3. 教育課程の編成の考え方及び特色 1) 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>本研究科博士後期課程では、基礎とする保健医療学研究科博士前期課程の理学療法学、およびその関連領域における学識をさらに発展させ、高い専門性と発展的な理学療法学の知識・技術に基づき、新たな理論構築や方法論を展開できる能力、専門的知識・技術を駆使し、自ら研究プロジェクトを高い倫理観を持って厳格に遂行できる能力、研究成果を国内外に発信し、理学療法学の研究の発展に貢献できる能力を有することで、<u>理学療法学の研究を積極的に推進し、質の高い理学療法学の基盤を創造する教育者・研究者の育成を目的とする。</u></p> <p>教育目的を達成するためのカリキュラム・ポリシーは次に示すとおりである。</p> <p>【理学療法学専攻博士後期課程】</p> <p>CP1. 新たな理論構築や方法論の展開に資する高度な専門知識<u>や治療技術</u>を学び、質の高い理学療法学の基盤を創造する<u>研究者としての能力</u>を高める。</p> <p>CP2. 専門領域の学術研究を積極的に分析し、研究課題に関連した専門的知識や研究遂行技術を学ぶことで、<u>自立した研究者となるための能力を</u>培う。</p> <p>CP3. 研究課題に係わる国内外での学会発表や論文公表等により専門分野</p>

新	旧
<p>発表や論文公表等により専門分野の学識を深め、国内外の専門家と積極的に交流し、国際的水準での研究推進や<u>教育の発展</u>に努める。</p>	<p>の学識を深め、国内外の専門家と積極的に交流し、国際的水準での研究推進に努める。</p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類（18 ページ）</p> <p>5. 基礎となる修士課程との関係</p> <p>本研究科博士後期課程は博士前期課程を基礎として、理学療法学における学識をさらに発展させ、国内外を問わず多様な場で社会に還元・貢献できる専門知識と専門技術、及び<u>高度な研究能力を有し</u>、理学療法学の研究を積極的に推進し、<u>質の高い理学療法学の基盤を創造</u>、<u>ならびに後進の指導を行い得る人材の養成</u>を目的として開設する。</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類（18 ページ）</p> <p>5. 基礎となる修士課程との関係</p> <p>本研究科博士後期課程は博士前期課程を基礎として、理学療法学における学識をさらに発展させ、国内外を問わず多様な場で社会に還元・貢献できる<u>高度な専門知識と専門技術を有する指導的</u>高度医療専門職者や、<u>理学療法学の研究を積極的に推進し、質の高い理学療法学の基盤を創造する教育者・研究者の養成</u>を目的として開設する。</p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類（20 ページ）</p> <p>7) 必要とされる分野であること</p> <p>理学療法分野の対象者は多様化・複雑化し、理学療法学の適用範囲も拡大を続けていることから、<u>専門知識と専門技術、及び高度な研究能力を有し</u>、拡大を続ける理学療法学分野における研究を積極的に推進し、<u>質の高い理学療法学の基盤を創造</u>、<u>ならびに後進の指導を行い得る人材</u>が求められている。</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類（20 ページ）</p> <p>7) 必要とされる分野であること</p> <p>理学療法分野の対象者は多様化・複雑化し、理学療法学の適用範囲も拡大を続けていることから、<u>高度な専門知識を有する指導的</u>高度医療専門職者や、<u>拡大を続ける理学療法学分野における研究を積極的に推進し、質の高い理学療法学の基盤を創造する教育者・研究者</u>が求められている。</p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類（21 ページ）</p> <p>7. 入学者選抜の概要</p> <p>1) 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>【理学療法学専攻博士後期課程】 入学者受入れ方針</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類（21 ページ）</p> <p>7. 入学者選抜の概要</p> <p>1) 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>【理学療法学専攻博士後期課程】 入学者受入れ方針</p>

新	旧
<p>理学療法学専攻博士後期課程は、学是である「仁」の心を兼ね備え、国内外を問わず多様な場で社会に還元・貢献できる専門知識と専門技術、<u>及び高度な研究能力を有し</u>、理学療法学の研究を積極的に推進し、<u>質の高い理学療法学の基盤を創造、ならびに後進の指導を行い得る人材を養成</u>することを目的としている。そのため、次のような志のある人物を求める。</p> <p>求める学生像</p> <p>AP1. 博士前期課程等で修得した専門領域の基盤となる知識・技能、柔軟な思考力と<u>倫理観</u>を兼ね備えている人</p> <p>AP2. 豊かな人間性と強い探求心を持ち、理学療法学分野の発展のため、自立して研究に取り組む姿勢がある人</p> <p>AP3. 理学療法学分野に高い知的関心を持ち、最先端の研究に目を向け、<u>研究をやり遂げ、研究成果を国内外に発信する英語力</u>のある人</p> <p>AP4. 博士後期課程で修得した高度な教育研究能力を活用し、理学療法学の発展に貢献する強い意志のある人</p>	<p>理学療法学専攻博士後期課程は、学是である「仁」の心を兼ね備え、国内外を問わず多様な場で社会に還元・貢献できる<u>高度な専門知識と専門技術を有する指導的</u>高度医療専門職者や、理学療法学の研究を積極的に推進し、<u>質の高い理学療法学の基盤を創造する教育者・研究者</u>を養成することを目的としている。そのため、次のような志のある人物を求める。</p> <p>求める学生像</p> <p>AP1. 博士前期課程等で修得した専門領域の基盤となる知識・技能、柔軟な思考力を兼ね備えている人</p> <p>AP2. 豊かな人間性と強い探求心を持ち、理学療法学分野の発展のため、自立して研究に取り組む姿勢がある人</p> <p>AP3. 理学療法学分野に高い知的関心を持ち、最先端の研究に目を向け、<u>研究をやり遂げる意欲</u>のある人</p> <p>AP4. 博士後期課程で修得した高度な教育研究能力を活用し、<u>教育者、研究者、指導者として</u>、理学療法学の発展に貢献する強い意志のある人</p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類 資料 (84 ページ) 資料 12 ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの関係</p> <p>※別添資料 1 参照</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類 資料 (84 ページ) 資料 12 ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの関係</p> <p>※別添資料 1 参照</p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類 資料 (85～86 ページ) 資料 13 カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類 資料 (85～86 ページ) 資料 13 カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー</p>

新	旧
<p>※別添資料 2 参照</p>	<p>※別添資料 2 参照</p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類 資料 (97～100 ページ) 資料 20 博士前期課程の 3 つのポリシーとの対比</p> <p>※別添資料 3 参照</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類 資料 (97～100 ページ) 資料 20 博士前期課程の 3 つのポリシーとの対比</p> <p>※別添資料 3 参照</p>
<p>シラバス (35～36 ページ)</p> <p>神経・運動制御理学療法学特別研究 第 1 回授業内容</p> <p><u>研究を行う上で求められる倫理規範について学び、討論を行う</u></p> <p>予習・復習・レポート課題等と学習時間</p> <p>【予習】(90 分)</p> <p><u>事前に配布する資料をよく読み、キーワードを理解しておく</u></p> <p>【復習】(90 分)</p> <p><u>授業内容を復習する</u></p>	<p>シラバス (33～34 ページ)</p> <p>神経・運動制御理学療法学特別研究 第 1 回授業内容</p> <p><u>研究課題の文献考証</u></p> <p>予習・復習・レポート課題等と学習時間</p> <p>【予習】(90 分)</p> <p><u>研究課題に関わる文献をまとめておく。</u></p> <p>【復習】(90 分)</p> <p><u>まとめた文献についてアブストラクトテーブルを作成する。</u></p>
<p>シラバス (40～41 ページ)</p> <p>運動器・スポーツ理学療法学特別研究 第 1 回授業内容</p> <p><u>研究を行う上で求められる倫理規範について学び、討論を行う</u></p> <p>予習・復習・レポート課題等と学習時間</p> <p>【予習】(90 分)</p> <p><u>事前に配布する資料をよく読み、キーワードを理解しておく</u></p> <p>【復習】(90 分)</p> <p><u>授業内容を復習する</u></p>	<p>シラバス (38～39 ページ)</p> <p>運動器・スポーツ理学療法学特別研究 第 1 回授業内容</p> <p><u>研究課題の文献考証</u></p> <p>予習・復習・レポート課題等と学習時間</p> <p>【予習】(90 分)</p> <p><u>研究課題に関わる文献をまとめておく。</u></p> <p>【復習】(90 分)</p> <p><u>まとめた文献についてアブストラクトテーブルを作成する。</u></p>
<p>シラバス (46～47 ページ)</p>	<p>シラバス (44～45 ページ)</p>

新	旧
<p>内部機能障害理学療法学特別研究 第1回授業内容</p> <p><u>研究を行う上で求められる倫理規範について学び、討論を行う</u></p> <p>予習・復習・レポート課題等と学習時間</p> <p>【予習】(90分)</p> <p><u>事前に配布する資料をよく読み、キーワードを理解しておく</u></p> <p>【復習】(90分)</p> <p><u>授業内容を復習する</u></p>	<p>内部機能障害理学療法学特別研究 第1回授業内容</p> <p><u>研究課題の文献考証</u></p> <p>予習・復習・レポート課題等と学習時間</p> <p>【予習】(90分)</p> <p><u>研究課題に関わる文献をまとめておく。</u></p> <p>【復習】(90分)</p> <p><u>まとめた文献についてアブストラクトテーブルを作成する。</u></p>
<p>学生確保の見通し等を記載した書類(2ページ)</p> <p>2) 新設組織の特色</p> <p>本学は学是「仁」の精神を基に、「不断前進」を教育研究の理念とし、他者を思いやり理解する心・感性を持ち、現状に満足せず、常に高い目標を目指して努力を続ける人材を育成していくことを目指している。</p> <p>保健医療学研究科博士後期課程では、基礎とする保健医療学研究科博士前期課程の理学療法学、およびその関連領域における学識をさらに発展させ、高い専門性と発展的な理学療法学の知識・技術に基づき、新たな理論構築や方法論を展開できる能力、専門的知識・技術を駆使し、自ら研究プロジェクトを高い倫理観を持って厳格に遂行できる能力、研究成果を国内外に発信し、理学療法学の研究の発展に貢献できる能力を有することで、理学療法学の研究を積極的に推進し、質の高い理学療法学の基盤を創造、<u>ならびに後進の指導を行い得る人材の育成を目的とする。</u></p>	<p>学生確保の見通し等を記載した書類(2ページ)</p> <p>2) 新設組織の特色</p> <p>本学は学是「仁」の精神を基に、「不断前進」を教育研究の理念とし、他者を思いやり理解する心・感性を持ち、現状に満足せず、常に高い目標を目指して努力を続ける人材を育成していくことを目指している。</p> <p>保健医療学研究科博士後期課程では、基礎とする保健医療学研究科博士前期課程の理学療法学、およびその関連領域における学識をさらに発展させ、高い専門性と発展的な理学療法学の知識・技術に基づき、新たな理論構築や方法論を展開できる能力、専門的知識・技術を駆使し、自ら研究プロジェクトを高い倫理観を持って厳格に遂行できる能力、研究成果を国内外に発信し、理学療法学の研究の発展に貢献できる能力を有することで、理学療法学の研究を積極的に推進し、質の高い理学療法学の基盤を創造する教育者・研究者の育成を目的とする。</p>

(是正事項) 保健医療学研究科 理学療法学専攻 (D)

2. 審査意見1のとおり、カリキュラム・ポリシーの妥当性について疑義があることから、教育課程全体が妥当であるとの判断をすることができない。このため、審査意見1への対応や以下に例示する点を踏まえて、本学科の教育課程が適切なディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、修得すべき知識や能力等に係る教育が網羅され、体系的に担保された上で、適切に編成されていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(1) 例えば、「運動器・スポーツ理学療法学特講演習Ⅰ」のシラバスについて、複数回担当する教員の授業内容が同じ内容であり、かつ本授業で取扱う具体的な疾患が判然としないなど、「設置の趣旨等を記載した書類(本文)」の「1. 3) (2) 運動器・スポーツ理学療法学領域」で説明している課題等に対応可能な内容となっているのか疑義がある。このため、シラバスの授業計画を適切に改めるとともに、本専攻に設ける3つの研究領域(神経・運動機能制御理学療法学領域、運動器・スポーツ理学療法学領域、内部機能障害理学療法学領域)における課題等に対応可能な授業内容になっていることについて明確かつ具体的に説明すること。

(対応)

審査意見1を踏まえ、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを修正し、整合性をとった。本専攻は、コースワークの『専門科目』及びリサーチワークの『演習・研究指導』に区分し、それぞれの教育が有機的に連動し、理学療法学専攻における専門性の高い研究を実施する上で、博士前期課程で修得する基礎から応用、博士後期課程での応用から発展に向けて段階的に関連性を持ち、体系的に学修できるように教育課程を編成している。

(1) について

審査意見を踏まえ、シラバスの授業内容についてより具体的な記載に修正する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類、シラバス

新	旧
設置の趣旨等を記載した書類(12ページ)	設置の趣旨等を記載した書類(12ページ)
3. 教育課程の編成の考え方及び特色 1) 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー) 本研究科博士後期課程では、基礎とする保健医療学研究科博士前期課程の理学療法	3. 教育課程の編成の考え方及び特色 1) 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー) 本研究科博士後期課程では、基礎とする保健医療学研究科博士前期課程の理学療法

新	旧
<p>学、およびその関連領域における学識をさらに発展させ、高い専門性と発展的な理学療法学の知識・技術に基づき、新たな理論構築や方法論を展開できる能力、専門的知識・技術を駆使し、自ら研究プロジェクトを高い倫理観を持って厳格に遂行できる能力、研究成果を国内外に発信し、理学療法学の研究の発展に貢献できる能力を有することで、<u>理学療法学の研究を積極的に推進し、質の高い理学療法学の基盤を創造、ならびに後進の指導を行い得る人材の育成</u>を目的とする。</p> <p>教育目的を達成するためのカリキュラム・ポリシーは次に示すとおりである。</p> <p>【理学療法学専攻博士後期課程】</p> <p>CP1. 新たな理論構築や方法論の展開に資する高度な専門知識を学び、質の高い理学療法学の基盤を創造する能力を高める。</p> <p>CP2. 専門領域の学術研究を積極的に分析し、研究課題に関連した専門的知識や研究遂行技術を学ぶことで<u>高い倫理観を身に付け、自立して研究を行うことができる能力</u>を培う。</p> <p>CP3. 研究課題に係わる国内外での学会発表や論文公表等により専門分野の学識を深め、国内外の専門家と積極的に交流し、国際的水準での研究推進や<u>教育の発展</u>に努める。</p>	<p>学、およびその関連領域における学識をさらに発展させ、高い専門性と発展的な理学療法学の知識・技術に基づき、新たな理論構築や方法論を展開できる能力、専門的知識・技術を駆使し、自ら研究プロジェクトを高い倫理観を持って厳格に遂行できる能力、研究成果を国内外に発信し、理学療法学の研究の発展に貢献できる能力を有することで、<u>理学療法学の研究を積極的に推進し、質の高い理学療法学の基盤を創造する教育者・研究者の育成</u>を目的とする。</p> <p>教育目的を達成するためのカリキュラム・ポリシーは次に示すとおりである。</p> <p>【理学療法学専攻博士後期課程】</p> <p>CP1. 新たな理論構築や方法論の展開に資する高度な専門知識や治療技術を学び、質の高い理学療法学の基盤を創造する<u>研究者としての能力</u>を高める。</p> <p>CP2. 専門領域の学術研究を積極的に分析し、研究課題に関連した専門的知識や研究遂行技術を学ぶことで、<u>自立した研究者となるための能力</u>を培う。</p> <p>CP3. 研究課題に係わる国内外での学会発表や論文公表等により専門分野の学識を深め、国内外の専門家と積極的に交流し、国際的水準での研究推進に努める。</p>
<p>シラバス (2～34 ページ)</p> <p>神経・運動制御理学療法学特講 神経・運動制御理学療法学特講演習 I 神経・運動制御理学療法学特講演習 II 運動器・スポーツ理学療法学特講 運動器・スポーツ理学療法学特講演習 I</p>	<p>シラバス (2～32 ページ)</p> <p>神経・運動制御理学療法学特講 神経・運動制御理学療法学特講演習 I 神経・運動制御理学療法学特講演習 II 運動器・スポーツ理学療法学特講</p>

新	旧
<p>運動器・スポーツ理学療法学特講演習Ⅱ 内部機能障害理学療法学特講 内部機能障害理学療法学特講演習Ⅰ 内部機能障害理学療法学特講演習Ⅱ</p> <p>※別添資料4参照</p>	<p>運動器・スポーツ理学療法学特講演習Ⅰ 運動器・スポーツ理学療法学特講演習Ⅱ 内部機能障害理学療法学特講 内部機能障害理学療法学特講演習Ⅰ 内部機能障害理学療法学特講演習Ⅱ</p> <p>※別添資料4参照</p>

(是正事項) 保健医療学研究科 理学療法学専攻 (D)

3. 審査意見1のとおり、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに疑義があるため、アドミッション・ポリシーの妥当性を判断することができないことから、アドミッション・ポリシーに整合した適切な入学者選抜になっているかどうかについても判断することはできないが、例えば、試験科目として語学試験（英語）を課しているが、本試験ではアドミッション・ポリシーに掲げる項目の何を評価・判定しているのか不明確であるなど、アドミッション・ポリシーに基づいた適切な入学者選抜となっているのか判然としない。このため、関連する審査意見への対応を踏まえつつ、本学の入学者選抜がアドミッション・ポリシーと整合した適切な選抜方法になっていることについて、明確かつ具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

審査意見1を踏まえ、3つのポリシーが整合するようアドミッション・ポリシーを修正した。入学試験について、アドミッション・ポリシーに掲げる国内外に発信する英語力を測定するために語学試験（英語）を課し、専門領域の基盤となる知識・技能、思考力、自立して研究に取り組む姿勢・意欲を評価するために面接試験を課すことを明確に説明する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
設置の趣旨等を記載した書類 (21 ページ)	設置の趣旨等を記載した書類 (21 ページ)
7. 入学者選抜の概要 1) 入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー) (略) 求める学生像 AP1. 博士前期課程等で修得した専門領域の基盤となる知識・技能、柔軟な思考力と倫理観を兼ね備えている人 AP2. 豊かな人間性と強い探求心を持ち、理学療法学分野の発展のため、自立して研究に取り組む姿勢がある人 AP3. 理学療法学分野に高い知的関心を持ち、最先端の研究に目を向け、	7. 入学者選抜の概要 1) 入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー) (略) 求める学生像 AP1. 博士前期課程等で修得した専門領域の基盤となる知識・技能、柔軟な思考力を兼ね備えている人 AP2. 豊かな人間性と強い探求心を持ち、理学療法学分野の発展のため、自立して研究に取り組む姿勢がある人 AP3. 理学療法学分野に高い知的関心を持ち、最先端の研究に目を向け、研究をやり遂げる意欲のある人

新	旧
<p>研究をやり遂げ、<u>研究成果を国内外に発信する英語力のある人</u></p> <p>AP4. 博士後期課程で修得した高度な教育研究能力を活用し、理学療法学の発展に貢献する強い意志のある人</p>	<p>AP4. 博士後期課程で修得した高度な教育研究能力を活用し、<u>教育者、研究者、指導者として、理学療法学の発展に貢献する強い意志のある人</u></p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類（22 ページ）</p> <p>（略）</p> <p>入学試験は毎年2回実施する。試験日については受験者の利便を考慮し、土曜日または日曜日に実施し、<u>アドミッション・ポリシーに掲げる国内外に発信する英語力を測定するために語学試験（英語）を、専門領域の基盤となる知識・能力、思考力、自立して研究に取り組む姿勢・意欲を評価するために面接試験を課す。</u></p> <p>（略）</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類（22 ページ）</p> <p>（略）</p> <p>入学試験は毎年2回実施する。試験日については受験者の利便を考慮し、土曜日または日曜日に実施し、<u>語学試験（英語）及び面接試験を課す。</u></p> <p>（略）</p>

(是正事項) 保健医療学研究科 理学療法学専攻 (D)

4. 本専攻においては、社会人が在職したまま修学できるよう、大学院設置基準第14条を適用し、社会人に配慮した教育方法を実施するとしているが、入学者選抜においては、社会人選抜を設けることなく、「社会人も一般選抜に含め、同一の基準で選考することとしている。しかしながら、例えば、面接試験の評価基準などについて具体的な説明がないことから、社会人も一般選抜に含めて選考した時に、社会人が入学可能な入学者選抜になっているのか疑義がある。このため、選抜基準を明確に説明することにより、社会人も一般選抜に含め、同一の基準で選考することの妥当性について具体的に説明すること。

(対応)

本専攻の修士課程（博士前期課程）においても社会人選抜を設けることなく、社会人も一般選抜に含め、同一の基準で合格者を選抜している。アドミッション・ポリシーに準じて合格者を選抜しており、社会人であるか否かに関わらず入学可能となっている。博士後期課程においても同一の選抜方法とし、公平性を担保するとともに一貫性を持たせる。社会人に対する入学試験における配慮は行わないが、社会人が学びやすい環境・制度を整えて、大学院設置基準第14条特例による柔軟な開講時間など入学後の配慮を行うことを明確に説明する。加えて、面接試験における評価基準を次のとおり設定し、社会人については経歴と入学後の学修環境が整っているかを確認する。

面接評価基準（6段階評価）

- ・本専攻の志望動機が明確であるか
- ・入学後の研究ビジョンが明確であるか
- ・専門領域の基盤となる知識・能力を有しているか
- ・研究テーマと研究計画が明確であり、実行可能性はあるか
- ・研究テーマに関連する基礎的な知識を有しているか
- ・研究を遂行する上での柔軟な思考力を有しているか
- ・学習意欲と研究マインドを有しているか

※社会人の場合は以下についても面接を通じて確認する

- ・本専攻で学修することに対する職場からの理解度
- ・教育指導歴および論文業績

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
設置の趣旨等を記載した書類（22ページ）	設置の趣旨等を記載した書類（22ページ）
(略)	(略)

新	旧																
<p>入学者選抜の方法は一般選抜のみとし、社会人も一般選抜に含め、同一の基準で選考する。<u>一般選抜は、本研究科博士前期課程の学生をはじめ、他大学出身者及び社会人などのうち、出願資格を満たす者を対象に広く募集する。アドミッション・ポリシーに準じて合格者を選抜し、社会人に対する入学試験における配慮は行わないが、社会人が学びやすい環境・制度を整えて、大学院設置基準第14条特例による柔軟な開講時間など入学後の配慮を行う。</u></p>	<p>入学者選抜の方法は一般選抜のみとし、社会人も一般選抜に含め、同一の基準で選考する。</p>																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>試験科目等</th> <th>語学試験 (英語)</th> <th>面接試験</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>配点</td> <td>100点</td> <td>100点</td> <td>200点</td> </tr> </tbody> </table>	試験科目等	語学試験 (英語)	面接試験	合計	配点	100点	100点	200点	<table border="1"> <thead> <tr> <th>試験科目等</th> <th>語学試験 (英語)</th> <th>面接試験</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>配点</td> <td>100点</td> <td>100点</td> <td>200点</td> </tr> </tbody> </table>	試験科目等	語学試験 (英語)	面接試験	合計	配点	100点	100点	200点
試験科目等	語学試験 (英語)	面接試験	合計														
配点	100点	100点	200点														
試験科目等	語学試験 (英語)	面接試験	合計														
配点	100点	100点	200点														
<p><u>面接評価基準 (6段階評価)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>本専攻の志望動機が明確であるか</u> ・ <u>入学後の研究ビジョンが明確であるか</u> ・ <u>専門領域の基盤となる知識・能力を有しているか</u> ・ <u>研究テーマと研究計画が明確であり、実行可能性はあるか</u> ・ <u>研究テーマに関連する基礎的な知識を有しているか</u> ・ <u>研究を遂行する上での柔軟な思考力を有しているか</u> ・ <u>学習意欲と研究マインドを有しているか</u> <p>※社会人の場合は以下についても面接を通じて確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>本専攻で学修することに対する職場からの理解度</u> ・ <u>教育指導歴および論文業績</u> 																	

(是正事項) 保健医療学研究科 理学療法学専攻 (D)

5. 「設置の趣旨等を記載した書類 (本文)」の「10. (1) 校舎等施設の整備計画」において、「御茶の水センタービル及び診療放射線学科実習棟には、講義室、演習室、実習室、実習用機器・備品が整備されており、本研究科においても各施設を保健医療学部と共用する。」と説明しているが、具体的にどの講義及び演習において、どのような設備、機器及び備品が必要となり、それらがどこに備え付けられているか等についての詳細な説明がないことから、示された整備計画が妥当であるとは判断できない。このため、本専攻の設備、機器及び備品が教育内容に即して十分であることについて、明確かつ具体的に説明することにより、本専攻の教育研究に支障がないことについて明らかにすること。

(対応)

本専攻における講義 (特講) は主に御茶の水センタービル 4 階の小講義室、演習 (特講 演習 I・II) は同 3 階のゼミ室で実施する。小講義室には 75 型ディスプレイ、ゼミ室には 65 型ディスプレイが常設されており、授業を実施・運営する環境が整備されている。演習・研究指導 (特別研究) については同 8・9 階の実習室を使用する。8・9 階の実習室には神経・運動制御理学療法学領域での研究に必要な三次元動作解析装置 (VICON V8) や筋電図計測装置 (DELSYS EMG SYSTEM)、運動器・スポーツ理学療法学領域での研究に必要な超音波画像診断装置 (シーメンス社製、ACUSON Juniper) や筋機能解析装置 (Isokinetic Medical 社、イージーテックプラス IP-ETGENU3)、内部機能障害理学療法学領域での研究に必要な心電図運動負荷モニタリングシステム (MLX-1000H) や呼気ガス代謝モニター (Cpex-1F) が備え付けられている。本専攻は夜間開講であり、設備、機器及び備品を共有する保健医療学部の授業時間割は 18 時で終了するため、夜間開講である本専攻の教育研究には支障がない。また、本専攻博士前期課程とは授業時間割が重ならないように調整するため、同じく本専攻博士後期課程の教育研究に支障はない。以上のことを「10. 2) 講義・演習室」において説明する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
設置の趣旨等を記載した書類 (25~26 ページ)	設置の趣旨等を記載した書類 (24~25 ページ)
2) 講義・演習室 本専攻の授業は、保健医療学部と共用する御茶の水センタービルで行い、学部の授業が終了する 18 時以降の利用とする。講義 (特講) は主に御茶の水センタービル 4	2) 講義・演習室 本研究科の授業は、保健医療学部と共用する御茶の水センタービル及び診療放射線学科実習棟で行い、学部の授業が終了する 18 時以降の利用とする。主に御茶の水セン

新	旧									
<p>階の小講義室、演習（特講演習Ⅰ・Ⅱ）は同3階のゼミ室で実施する。小講義室には75型ディスプレイ、ゼミ室には65型ディスプレイが常設されており、授業を実施・運営する環境が整備されている。演習・研究指導（特別研究）については同8・9階の実習室を使用する。8・9階の実習室には神経・運動制御理学療法学領域での研究に必要な三次元動作解析装置（VICON V8）や筋電図計測装置（DELSYS EMG SYSTEM）、運動器・スポーツ理学療法学領域での研究に必要な超音波画像診断装置（シーメンス社製、ACUSON Juniper）や筋機能解析装置（Isokinetic Medical社、イージーテックプラス IP-ETGENU3）、内部機能障害理学療法学領域での研究に必要な心電図運動負荷モニタリングシステム（MLX-1000H）や呼気ガス代謝モニター（Cpex-1F）が備え付けられている。本専攻は夜間開講であり、設備、機器及び備品を共有する保健医療学部の授業時間割は18時で終了するため、夜間開講である本専攻の教育研究には支障がない。また、本専攻博士前期課程とは授業時間割が重ならないように調整するため、同じく本専攻博士後期課程の教育研究に支障はない。</p>	<p>タービル4階の講義室を使用して授業を行う。</p>									
<p>主な設備・機器・備品</p>										
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="193 1581 328 1675">授業科目</th> <th data-bbox="328 1581 456 1675">場所</th> <th data-bbox="456 1581 783 1675">機器・備品</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="193 1675 328 1966">講義（特講）</td> <td data-bbox="328 1675 456 1966">御茶の水タービル4階小講義室</td> <td data-bbox="456 1675 783 1966">75型ディスプレイ</td> </tr> <tr> <td data-bbox="193 1966 328 2011">演習</td> <td data-bbox="328 1966 456 2011">御茶の</td> <td data-bbox="456 1966 783 2011">65型ディスプレイ</td> </tr> </tbody> </table>	授業科目	場所	機器・備品	講義（特講）	御茶の水タービル4階小講義室	75型ディスプレイ	演習	御茶の	65型ディスプレイ	
授業科目	場所	機器・備品								
講義（特講）	御茶の水タービル4階小講義室	75型ディスプレイ								
演習	御茶の	65型ディスプレイ								

新			旧
(特講 演習 I・ II)	水セン タービ ル 3階ゼ ミ室		
演習・ 研究指 導 (特別 研究)	御茶の 水セン タービ ル 8・9 階実習 室	<p><u>神経・運動制御理学療法学領域</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>三次元動作解析装置 (VICON V8)</u> ● <u>筋電図計測装置 (DELSYS EMG SYSTEM)</u> <p><u>運動器・スポーツ理学療法学領域</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>超音波画像診断装置 (シーメンス社製、ACUSON Juniper)</u> ● <u>筋機能解析装置 (Isokinetic Medical 社、イメージテックプラス IP-ETGENU3)</u> <p><u>内部機能障害理学療法学領域</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>心電図運動負荷モニタリングシステム (MLX-1000H)</u> ● <u>呼気ガス代謝モニター (Cpex-1F)</u> 	

(審査意見以外の対応) 保健医療学研究科 理学療法学専攻 (D)

- ①設置の趣旨等を記載した書類は当該申請に係る専攻のみを記載すること。
- ②1年次の研究指導スケジュールについて、本専攻博士前期課程を経ていない入学者へのサポートについて具体的に説明すること。
- ③学生確保の見通し等を記載した書類で選定した競合校の妥当性についてより具体的に説明すること。
- ④人材需要に関するアンケートの調査対象が医療機関に留まっている。医療機関以外における人材需要について説明すること。
- ⑤「神経・運動制御理学療法学」の誤記を正すこと。

(対応)

- ①指摘に従い、診療放射線学専攻の記載を削除するとともに、その前後を適切に修正する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類、設置の趣旨等を記載した書類 資料、学生確保の見通し等を記載した書類

新	旧
<p>設置の趣旨等を記載した書類 (4 ページ)</p> <p>(略)</p> <p>本学は平成 31 年 4 月に保健医療学部を開設し、理学療法学科を設置した。超高齢社会でニーズが高まる理学療法士を養成している。さらには、令和 5 年 4 月に<u>大学院保健医療学研究科理学療法学専攻修士課程</u>を開設し、<u>理学療法学に関する専門的知識や技術の基本的応用能力、および当該分野の諸問題に対して体系的に整理し客観的に分析する能力を持つ人材の養成に着手している。</u></p> <p>(略)</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類 (4 ページ)</p> <p>(略)</p> <p>本学は平成 31 年 4 月に保健医療学部を開設し、理学療法学科と<u>診療放射線学科</u>を設置した。超高齢社会でニーズが高まる理学療法士を養成している。さらには、令和 5 年 4 月に<u>大学院保健医療学研究科修士課程 (理学療法学専攻・診療放射線学専攻)</u>を開設し、<u>理学療法学に関する専門的知識や技術の基本的応用能力、および当該分野の諸問題に対して体系的に整理し客観的に分析する能力を持つ人材の養成に着手している。</u></p> <p>(略)</p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類 (14 ページ)</p> <p>2) 履修指導の方法</p> <p>(1) 研究領域の選定</p> <p>本研究科<u>理学療法学専攻</u>博士後期課程</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類 (14 ページ)</p> <p>2) 履修指導の方法</p> <p>(1) 研究領域の選定</p> <p>本研究科博士後期課程に入学を希望す</p>

新	旧
<p>に入学を希望する学生は、出願の段階で専門領域を選択し、出願の前に指導を受けたい研究指導教員を訪問し、次の内容を事前に相談する。</p> <p>(略)</p>	<p>る学生は、出願の段階で<u>専攻（理学療法学専攻または診療放射線学専攻）</u>、及び専門領域を選択し、出願の前に指導を受けたい研究指導教員を訪問し、次の内容を事前に相談する。</p> <p>(略)</p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類 資料（96ページ） 資料19 基礎となる博士前期課程との関係図</p> <p>※別添資料5参照</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類 資料（96ページ） 資料19 基礎となる博士前期課程との関係図</p> <p>※別添資料5参照</p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類（24～25ページ）</p> <p>10. 施設・設備等の整備計画</p> <p>1) 大学院生の研究室</p> <p>本研究科<u>理学療法学専攻</u>博士後期課程は、入学定員4名、収容定員<u>12名</u>の規模で開設する。基礎となる学部である保健医療学部の校舎は、JR 御茶ノ水駅から徒歩7分に位置する御茶の水センタービル及び診療放射線学科実習棟である。御茶の水センタービルには、講義室、演習室、実習室、実習用機器・備品が整備されており、本研究科においても各施設を保健医療学部と共用する。施設・設備等の利用については、学部の授業が終了する18時以降とし、本研究科の授業も原則として18時以降開始とする。</p> <p>本研究科博士後期課程学生の自習室については、診療放射線学科実習棟の2階を整備し、机とパーソナルコンピューターを40席分、プリンター2台を用意する【資料23】。御茶の水センタービル2階および7階のロッカー室内に研究科学生の個人用ロ</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類（24～25ページ）</p> <p>10. 施設・設備等の整備計画</p> <p>1) 大学院生の研究室</p> <p>本研究科博士後期課程は、入学定員を<u>理学療法学専攻専攻4名、診療放射線学専攻4名</u>、収容定員<u>24名</u>の規模で開設する。基礎となる学部である保健医療学部の校舎は、JR 御茶ノ水駅から徒歩7分に位置する御茶の水センタービル及び診療放射線学科実習棟である。御茶の水センタービル<u>及び診療放射線学科実習棟</u>には、講義室、演習室、実習室、実習用機器・備品が整備されており、本研究科においても各施設を保健医療学部と共用する。施設・設備等の利用については、学部の授業が終了する18時以降とし、本研究科の授業も原則として18時以降開始とする。</p> <p>本研究科博士後期課程学生の自習室については、診療放射線学科実習棟の2階を整備し、机とパーソナルコンピューターを40席分、プリンター2台を用意する【資料23】。御茶の水センタービル2階および7</p>

新	旧
<p>ッカーを割り当てる。御茶の水センタービル及び診療放射線学科実習棟共に全館 Wi-Fi 環境が整っており、ハード面においても学生の研究活動を支援する環境が整備されている。</p> <p>【資料 23】 大学院生研究室</p> <p>2) 講義・演習室</p> <p>本専攻の授業は、保健医療学部と共用する御茶の水センタービルで行い、学部の授業が終了する 18 時以降の利用とする。講義（特講）は主に御茶の水センタービル 4 階の小講義室、演習（特講演習 I・II）は同 3 階のゼミ室で実施する。小講義室には 75 型ディスプレイ、ゼミ室には 65 型ディスプレイが常設されており、授業を実施・運営する環境が整備されている。演習・研究指導（特別研究）については同 8・9 階の実習室を使用する。8・9 階の実習室には神経・運動制御理学療法学領域での研究に必要な三次元動作解析装置（VICON V8）や筋電図計測装置（DELSYS EMG SYSTEM）、運動器・スポーツ理学療法学領域での研究に必要な超音波画像診断装置（シーメンス社製、ACUSON Juniper）や筋機能解析装置（Isokinetic Medical 社、イージーテックプラス IP-ETGENU3）、内部機能障害理学療法学領域での研究に必要な心電図運動負荷モニタリングシステム（MLX-1000H）や呼気ガス代謝モニター（Cpex-1F）が備え付けられている。本専攻は夜間開講であり、設備、機器及び備品を共有する保健医療学部の授業時間割は 18 時で終了するため、夜間開講である本専攻の教育研究には支障がない。また、本専攻博士前期課程とは授業時間割が重ならないように調整するため、同じく本専攻博士後期課程の教育研</p>	<p>階のロッカー室内に研究科学生の個人用ロッカーを割り当てる。御茶の水センタービル及び診療放射線学科実習棟共に全館 Wi-Fi 環境が整っており、ハード面においても学生の研究活動を支援する環境が整備されている。</p> <p>【資料 23】 大学院生研究室</p> <p>2) 講義・演習室</p> <p>本研究科の授業は、保健医療学部と共用する御茶の水センタービル及び診療放射線学科実習棟で行い、学部の授業が終了する 18 時以降の利用とする。主に御茶の水センタービル 4 階の講義室を使用して授業を行う。</p>

新	旧
究に支障はない。	
<p>学生確保の見通し等を記載した書類（3 ページ）</p> <p>本学は平成 31 年 4 月に保健医療学部を開設し、理学療法学科を設置した。超高齢社会でニーズが高まる理学療法士を養成している。さらには、令和 5 年 4 月に<u>大学院保健医療学研究科理学療法学専攻修士課程</u>を開設し、<u>理学療法学に関する専門的知識や技術の基本的応用能力、および当該分野の諸問題に対して体系的に整理し客観的に分析する能力を持つ人材の養成に着手</u>している。</p> <p>(略)</p>	<p>学生確保の見通し等を記載した書類（3 ページ）</p> <p>本学は平成 31 年 4 月に保健医療学部を開設し、理学療法学科と<u>診療放射線学科</u>を設置した。超高齢社会でニーズが高まる理学療法士を養成している。さらには、令和 5 年 4 月に<u>大学院保健医療学研究科修士課程（理学療法学専攻・診療放射線学専攻）</u>を開設し、<u>理学療法学に関する専門的知識や技術の基本的応用能力、および当該分野の諸問題に対して体系的に整理し客観的に分析する能力を持つ人材の養成に着手</u>している。</p> <p>(略)</p>

②本専攻に入学を希望する学生は、出願の段階で研究指導教員を訪問し、研究内容や研究指導方針について事前に相談することとしている。本専攻博士前期課程を修了していない入学希望者については、研究開始時期に遅れが生じないように十分に面談を行うことを説明する。【資料 16】で示す研究指導スケジュール通りに進めることを原則とするが、研究内容・研究指導計画の決定に時間を要する場合には、研究計画書の提出時期を猶予するなど柔軟に対応することを説明する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<p>設置の趣旨等を記載した書類（14 ページ）</p> <p>2) 履修指導の方法</p> <p>(1) 研究領域の選定</p> <p>本研究科<u>理学療法学専攻</u>博士後期課程に入学を希望する学生は、出願の段階で専門領域を選択し、出願の前に指導を受けたい研究指導教員を訪問し、次の内容</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類（14 ページ）</p> <p>2) 履修指導の方法</p> <p>(1) 研究領域の選定</p> <p>本研究科博士後期課程に入学を希望する学生は、出願の段階で<u>専攻（理学療法学専攻または診療放射線専攻）</u>、及び専門領域を選択し、出願の前に指導を受けた</p>

新	旧
<p>を事前に相談する。<u>本専攻博士前期課程を修了していない入学希望者については、入学後の研究開始時期に遅れが生じないように、十分に面談を行う。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院で実施したい研究内容や研究課題、及び研究指導教員の専門性との整合性 ・研究指導教員の研究指導方針及び方法 ・研究指導教員の授業時間帯や必要となる出席時間数の目安 ・履修の全体イメージ ・在職者の場合、勤務と受講の両立の可否 ・その他、本研究科に関すること <p>なお、事前に研究指導教員を訪問できない場合は、電子メールまたはオンライン会議システム等を利用した相談を受け付ける。</p> <p>(略)</p>	<p>い研究指導教員を訪問し、次の内容を事前に相談する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院で実施したい研究内容や研究課題、及び研究指導教員の専門性との整合性 ・研究指導教員の研究指導方針及び方法 ・研究指導教員の授業時間帯や必要となる出席時間数の目安 ・履修の全体イメージ ・在職者の場合、勤務と受講の両立の可否 ・その他、本研究科に関すること <p>なお、事前に研究指導教員を訪問できない場合は、電子メールまたはオンライン会議システム等を利用した相談を受け付ける。</p> <p>(略)</p>
<p>設置の趣旨等を記載した書類（15 ページ）</p> <p>3) 研究指導の方法</p> <p>研究指導教員は学生が博士の学位を円滑に取得できるよう、次のとおり論文作成指導を行う【資料16】。<u>当該スケジュール通りに進めることを原則とするが、研究内容・研究指導計画の決定に時間を要する場合には、研究計画書の提出時期を猶予するなど柔軟に対応する。</u></p> <p>(略)</p>	<p>設置の趣旨等を記載した書類（15 ページ）</p> <p>3) 研究指導の方法</p> <p>研究指導教員は学生が博士の学位を円滑に取得できるよう、次のとおり論文作成指導を行う【資料16】。</p> <p>(略)</p>

③本専攻では、学是である「仁」の心を兼ね備え、国内外を問わず多様な場で社会に還元・貢献できる専門知識と専門技術、及び高度な研究能力を有し、理学療法学の研究を

積極的に推進し、質の高い理学療法学の基盤を創造、ならびに後進の指導を行い得る人材の養成を目的としている。選定した競合校においては、「国際的視野に立脚した独創性ある研究を自立して行うことが可能で、理学療法各領域の教育者および研究者となる人材を育成する。」としている。いずれも理学療法学分野における教育・研究の基盤となる人材の養成を目的としており、類似性が高いことを説明する。

(新旧対照表) 学生確保の見通し等を記載した書類

新			旧		
学生確保の見通し等を記載した書類 (6~8ページ)			学生確保の見通し等を記載した書類 (6~7ページ)		
2) 競合校の状況分析 ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性 【競合校の選定理由】 南関東1都3県の理学療法学科を標榜する大学の大学院設置状況【資料6】から、東京都立大学大学院人間健康科学研究科博士後期課程理学療法科学域を競合校として選定する。東京都立大学のホームページから得られる情報をもとに、競合校設定の観点に基づいた比較を下表に示す。			2) 競合校の状況分析 ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性 【競合校の選定理由】 南関東1都3県の理学療法学科を標榜する大学の大学院設置状況【資料6】から、東京都立大学大学院人間健康科学研究科博士後期課程理学療法科学域を競合校として選定する。東京都立大学のホームページから得られる情報をもとに、競合校設定の観点に基づいた比較を下表に示す。		
競合校設定の観点	順天堂大学大学院保健医療学研究科理学療法学専攻博士後期課程	東京都立大学大学院人間健康科学研究科博士後期課程理学療法科学域	競合校設定の観点	順天堂大学大学院保健医療学研究科理学療法学専攻博士後期課程	東京都立大学大学院人間健康科学研究科博士後期課程理学療法科学域
学校種	大学	大学	学校種	大学	大学
定員規模	4名	5名	定員規模	4名	5名
学問分野	保健	保健	学問分野	保健	保健
所在地	東京都文京区本郷2-1-1	東京都荒川区東尾久7-2-10	所在地	東京都文京区本郷2-1-1	東京都荒川区東尾久7-2-10
養成する人材像	学是である「仁」の心を兼ね備え、国内外を問わず多様な場で社	国際的視野に立脚した独創性ある研究を自立して行うことが可能	学力層(求める学生像)	・博士前期課程等で修得した専攻分野の基盤となる知識・	・専門領域において、新たな理論構築に意欲を持ち続けら

新		旧	
	<p>会に還元・貢献できる専門知識と専門技術、及び高度な研究能力を有し、理学療法学の研究を積極的に推進し、質の高い理学療法学の基盤を創造、ならびに後進の指導を行い得る人材の養成を目的とする。</p>	<p>で、理学療法各領域の教育者および研究者となる人材を育成する。</p>	<p>れる人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法の発展を担う使命感を持つ人 ・当分野におけるリーダーとなる意欲のある人 ・協調性と自主性を併せ持ち、建設的な討論ができる人
<p>学力層 (求める学生像)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・博士前期課程等で修得した専攻分野の基盤となる知識・技能、柔軟な思考力と倫理観を兼ね備えている人 ・豊かな人間性と強い探求心を持ち、理学療法学分野の発展のため、自立して研究に取り組む姿勢がある人 ・理学療法学 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門領域において、新たな理論構築に意欲を持ち続けられる人 ・理学療法の発展を担う使命感を持つ人 ・当分野におけるリーダーとなる意欲のある人 ・協調性と自主性を併せ 	<ul style="list-style-type: none"> 技能、柔軟な思考力を兼ね備えている人 ・豊かな人間性と強い探求心を持ち、理学療法学分野の発展のため、自立して研究に取り組む姿勢がある人 ・理学療法学分野に高い知的関心を持ち、最先端の研究に目を向け、研究をやり遂げる意欲のある人 ・博士後期課程で修得した高度な教育研究能力を活用し、<u>教育者、研究者、指導者として、</u>理学療法学の発展に貢献する強い意志のある人
		取得で	<p>博士（理学療</p> <p>博士（理学療</p>

新			旧		
	<p>分野に高い知的関心を持ち、最先端の研究に目を向け、研究をやり遂げ、<u>研究成果を国内外に発信する英語力</u>のある人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士後期課程で修得した高度な教育研究能力を活用し、理学療法学の発展に貢献する強い意志のある人 	<p>持ち、建設的な討論ができる人</p>	<p>きる 学位</p>	<p>法学)</p>	<p>法学)</p>
	<p>本学および競合校の学校種はいずれも大学である。学問分野は学校基本調査の学科系統分類表では同じ保健に分類され、且つ取得できる学位の名称も同じく博士（理学療法学）である。定員規模について、本学は4名、競合校は5名とおおよそ同規模である。所在地はいずれも東京23区内に位置しており、ともに理学療法学の発展に貢献する強い意志のある者を求める学生像としている。いずれの観点においても極めて類似性が高いことから、競合校として選定した。</p>				
<p>取得できる 学位</p>	<p>博士（理学療 法学)</p>	<p>博士（理学療 法学)</p>			
<p>本学および競合校の学校種はいずれも大学である。学問分野は学校基本調査の学科系統分類表では同じ保健に分類され、且つ取得できる学位の名称も同じく博士（理学療法学）である。定員規模について、本学は4名、競合校は5名とおおよそ同規模である。所在地はいずれも東京23区内に位置しており、ともに理学療法学の発展に貢献する強い意志のある者を求める学生像としている。<u>養成する人材像について、本専攻では、「学是である「仁」の心を兼ね備え、国内外を問わず多様な場で社会に還</u></p>					

新	旧
<p><u>元・貢献できる専門知識と専門技術、及び高度な研究能力を有し、理学療法学の研究を積極的に推進し、質の高い理学療法学の基盤を創造、ならびに後進の指導を行い得る人材の養成」を目的としている。選定した競合校においては、「国際的視野に立脚した独創性ある研究を自立して行うことが可能で、理学療法各領域の教育者および研究者となる人材の育成」を掲げている。いずれも理学療法学分野における教育・研究の基盤となる人材の養成を目的としている。いずれの観点においても極めて類似性が高いことから、競合校として選定した。</u></p>	

- ④「指導的高度医療専門職者」についても、専門知識と専門技術に加え、高度な研究能力を有していることが求められていることから、医療機関等を対象に人材需要に関するアンケート調査を実施した。医療機関以外では、大学教員等も想定している。令和5年度学校基本調査（文部科学省）の結果に基づき、大学教員としての就職見込みについて説明する。なお、養成する人材像の変更に伴い、修了後の進路について再検討を行い、各種健診センター、医療機器メーカーを削除する。

(新旧対照表) 学生確保の見通し等を記載した書類、設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<p>学生確保の見通し等を記載した書類 (12～13 ページ)</p> <p><u>医療機関以外の進路として、大学教員も想定される。令和5年度学校基本調査（文部科学省）によると、下表で示す通り、保健系の大学院博士課程修了者の就職者数は4,904人であり、そのうち988人(20.1%)が大学教員であった。本専攻修了者についても、本学をはじめとする大学の教員として就職することが見込まれる。</u></p>	<p>学生確保の見通し等を記載した書類 (12 ページ)</p> <p>なし</p>

新		旧
(表) 保健系の大学院博士課程修了者の職業別就職者数 (文部科学省・令和5年度学校基本調査結果より)		
区分	人数	
専門的・技術的職業従事者	4,780	
研究者	471	
製造技術者 (開発)	98	
製造技術者 (開発除く)	20	
情報処理・通信技術者	18	
その他の技術者	26	
中学校教員	2	
高等学校教員	1	
中等教育学校教員	1	
高等専門学校教員	3	
短期大学教員	7	
大学教員	988	
特別支援学校教員	3	
上記以外の学校の教員	19	
医師, 歯科医師, 獣医師, 薬剤師	2,771	
保健師, 助産師, 看護師	65	
医療技術者	189	
その他の保健医療従事者	50	
美術家, 写真家, デザイナー, 音楽家, 舞台芸術家	1	
その他の専門的・技術的職業従事者	47	
管理的職業従事者	26	
事務従事者	37	
販売従事者	7	
サービス職業従事者	8	
保安職業従事者	1	
農林漁業従事者	1	
生産工程従事者	2	
上記以外のもの	42	

新	旧
設置の趣旨等を記載した書類 (10 ページ)	設置の趣旨等を記載した書類 (10 ページ)
<p>(3) 修了後の進路</p> <p>修了後は医療機関や教育・研究機関が主な進路となる。本研究科博士後期課程入学者には医療機関等で活動する社会人も含まれることが想定されるため、修了後は引き続き所属機関において、または教育・研究機関において、教育・研究の両面で中心的な役割を担うことが期待される。</p>	<p>(3) 修了後の進路</p> <p>修了後は医療機関や教育・研究機関、<u>各種健診センター、医療機器メーカー</u>が主な進路となる。本研究科博士後期課程入学者には医療機関等で活動する社会人も含まれることが想定されるため、修了後は引き続き所属機関において、または教育・研究機関において、教育・研究の両面で中心的な役割を担うことが期待される。</p>

⑤指摘に従い、関係する書類を修正する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類、設置の趣旨等を記載した書類 資料、
学生確保の見通し等を記載した書類

新	旧
設置の趣旨等を記載した書類 (6 ページ)	設置の趣旨等を記載した書類 (6 ページ)
<p>(略)</p> <p>(1) 神経・運動制御理学療法学領域</p>	<p>(略)</p> <p>(1) 神経・運動機能制御理学療法学領域</p>
設置の趣旨等を記載した書類 (13 ページ)	設置の趣旨等を記載した書類 (13 ページ)
<p>(略)</p> <p>1. 専門科目</p> <p>理学療法学の高度専門知識の修得と技術の向上を目的に、理学療法学の中心的な研究領域である「神経理学療法」「運動器理学療法」「内部機能障害理学療法」の最新知見を教授するため、「神経・運動制御理学療法学特講」、「運動器・スポーツ理学療法学特講」、「内部機能障害理学療</p>	<p>(略)</p> <p>1. 専門科目</p> <p>理学療法学の高度専門知識の修得と技術の向上を目的に、理学療法学の中心的な研究領域である「神経理学療法」「運動器理学療法」「内部機能障害理学療法」の最新知見を教授するため、「神経・運動機能制御理学療法学特講」、「運動器・スポーツ理学療法学特講」、「内部機能障害理</p>

新			旧		
<p>法学特講」を配置した。これらでは、新たな理論構築や方法論の展開に資する高度な専門知識や治療技術を教授する。また、「神経・運動制御理学療法学特講演習Ⅰ」、「神経・運動制御理学療法学特講演習Ⅱ」、「運動器・スポーツ理学療法学特講演習Ⅰ」、「運動器・スポーツ理学療法学特講演習Ⅱ」、「内部機能障害理学療法学特講演習Ⅰ」、「内部機能障害理学療法学特講演習Ⅱ」では、同じ専門領域の学術研究を積極的に分析することで、研究課題に関連した専門的知識や研究遂行技術を教授する。</p>			<p>学療法学特講」を配置した。これらでは、新たな理論構築や方法論の展開に資する高度な専門知識や治療技術を教授する。また、「神経・運動機能制御理学療法学特講演習Ⅰ」、「神経・運動機能制御理学療法学特講演習Ⅱ」、「運動器・スポーツ理学療法学特講演習Ⅰ」、「運動器・スポーツ理学療法学特講演習Ⅱ」、「内部機能障害理学療法学特講演習Ⅰ」、「内部機能障害理学療法学特講演習Ⅱ」では、同じ専門領域の学術研究を積極的に分析することで、研究課題に関連した専門的知識や研究遂行技術を教授する。</p>		
<p>設置の趣旨等を記載した書類 資料 (96 ページ) 資料 19 基礎となる博士前期課程との関係図</p> <p>神経・運動機能制御理学療法学</p>			<p>設置の趣旨等を記載した書類 資料 (96 ページ) 資料 19 基礎となる博士前期課程との関係図</p> <p>神経・運動機能制御理学療法学</p>		
<p>学生確保の見通し等を記載した書類 (8～9 ページ)</p>			<p>学生確保の見通し等を記載した書類 (8 ページ)</p>		
比較分析の観点	順天堂大学大学院保健医療学研究科理学療法学専攻博士後期課程	東京都立大学大学院人間健康科学研究科博士後期課程理学療法科学域	比較分析の観点	順天堂大学大学院保健医療学研究科理学療法学専攻博士後期課程	東京都立大学大学院人間健康科学研究科博士後期課程理学療法科学域
教育内容・方法	「神経・運動機能制御理学療法学領域」「運動器・スポーツ理学療法学領域」「内部機能障害理学療法学領域」の3つの領域を設け、	「運動障害分析理学療学分野」「身体機能回復理学療学分野」「地域理学療学分野」の3つの研究分野を設け、博士前期課程での学	教育内容・方法	「神経・運動機能制御理学療法学領域」「運動器・スポーツ理学療法学領域」「内部機能障害理学療法学領域」の3つの領域を設け、	「運動障害分析理学療学分野」「身体機能回復理学療学分野」「地域理学療学分野」の3つの研究分野を設け、博士前期課程での学

新		旧	
	博士前期課程における学識をさらに発展させる。博士前期課程の教育課程の上に積み上げる形として、さらに専門性を高めたコースワークとリサーチワークを適切に組み合わせる。 夜間開講。	習・研究をさらに発展させる。 昼夜開講制。	
	博士前期課程における学識をさらに発展させる。博士前期課程の教育課程の上に積み上げる形として、さらに専門性を高めたコースワークとリサーチワークを適切に組み合わせる。 夜間開講。	習・研究をさらに発展させる。 昼夜開講制。	
(略)	本研究科博士後期課程においては、「神経・運動制御理学療法学領域」「運動器・スポーツ理学療法学領域」「内部機能障害理学療法学領域」の3つの領域を設け、博士前期課程における学識をさらに発展させることとしている。	(略)	本研究科博士後期課程においては、「神経・運動機能制御理学療法学領域」「運動器・スポーツ理学療法学領域」「内部機能障害理学療法学領域」の3つの領域を設け、博士前期課程における学識をさらに発展させることとしている。
(略)		(略)	